環境問題はどう広がったか（地域の公害から地球の課題へ）

環境問題は、どのような経緯で地域から地球規模へ広がり、どんな対策がとられてきたか

段を上るごとに広がったもの

問題の範囲	① 地域	→ ② 国	→ ③ 地球
対策の担い手	① 地域の住民	→ ② 国	→ ③ 国際社会

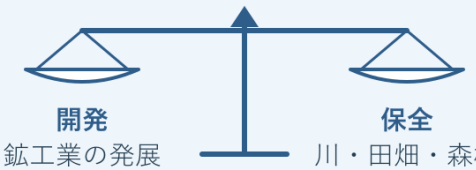
各段の天秤：その時期に、両立が問われた「開発」と「保全」（重さの差は示さない）

① 工業化が進んだ時期（19世紀〜）

範囲：地域　担い手：地域の住民

問題　工場や鉱山の煙・排水で、川や田畑・森林に被害が出る

対策　被害を受けた地域の人々が、原因を止めるよう訴える

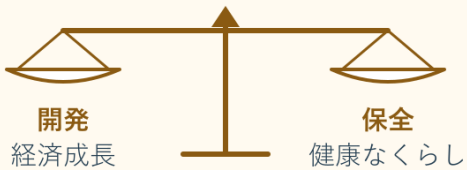


② 経済成長の時期（1960年代ごろ）

範囲：国　担い手：国

問題　先進国の各地で公害が深刻になる（大気の汚れ・水の汚れなど）

対策　住民の運動や裁判が広がる
国が法律や行政のしくみをつくる
日本：1967年 公害対策基本法
1971年 環境庁



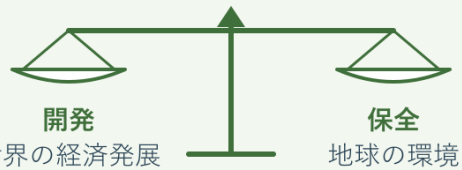
③ グローバル化の時期（1970年代〜）

範囲：地球　担い手：国際社会

問題　国境をこえる汚染や地球温暖化など、地球規模の課題が広がる

対策　1972年 国連人間環境会議
1992年 国連環境開発会議（地球サミット）
1997年 京都議定書：先進国に削減の目標
2015年 パリ協定：すべての国が目標を出す

住民の運動や国の法律も、続いている



④ これからどう向き合うか

開発と保全を、どう両立させていくか

※ 模式図。時期は目安で、国や地域によって違う。天秤はどちらが重いかを示さない。